

第1回鎌ヶ谷市地域福祉計画策定委員会 会議録

日時：平成27年10月2日（金）14時～16時

場所：総合福祉保健センター4階会議室

<出席者>

策定委員：徳田訓康委員長、九谷林太郎副委員長、石川宏貴委員、三好志都美委員、
馬場一郎委員、三浦弘委員、山本幸子委員、福澤明二委員、小林敦夫委員、
田邊光子委員、中野洪委員、山根亜紀委員、川村浩幸委員（欠席）

事務局：斉藤健康福祉部次長、高橋社会福祉課長、白藤課長補佐、會澤主査、岩下主事

委託業者：株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 中島主任研究員、山下トータルアドバイザー

<次 第>

1. 開会
2. 委嘱状交付式
3. 第1回会議

議 題

- (1) 会議の公開・非公開について
- (2) 委員長及び副委員長の選出について
- (3) 会議録署名人の選出について
- (4) 鎌ヶ谷市地域福祉計画について
- (5) その他

4. 閉会

会議録

1. 開会

2. 委嘱状交付式

- (1) 委嘱状交付
- (2) 市長の挨拶

「鎌ヶ谷市地域福祉計画策定委員会」委員の委嘱状交付式に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

皆さまには、日頃より市政に対し、多大なるご協力を賜わり誠にありがとうございます。

さて、本日の会議の議題となります「鎌ヶ谷市地域福祉計画」につきましては、平成17年3月に、地域社会の変化や国における福祉制度の転換、社会福祉の新たな理念を踏まえた中で、市民、事業者、行政が協働して地域福祉を推進することにより、すべての市民が住み慣れた地域で、安心して、自立した豊かな生活を送ることができる、地域社会の実現を目指し、策定いたしました。

今回、皆さまにご尽力をお願いいたしますのは、平成23年度に改訂した地域福祉計画が平成27年度に終了するため、新たに平成28年度から平成32年度までの5か年を計画期間とする地域福祉計画を、現在の社会情勢の変化や、これまでの計画の進行状況を踏まえた中で改訂する必要が生じており、各分野の有識者である皆さまのご意見を、ぜひ計画に反映したいと考えているからでございます。

昨今におきまして、高齢者の所在不明や児童虐待、いじめ問題、通り魔的事件が多発しております。これも、地域で、近隣の関係が希薄となり、地域の中でお互いが支えあい助け合いながら生活を営むという「地域力」が低下していることが一つの要因となっているのかもしれない。

まさにこの「地域力」を充実させることが地域福祉の目指すところであります。

高齢者や障がいを持つ方々はもとより、誰もが安全安心に暮らすことができるためには、いざというときに、地域で対応できる環境を整えておくことが、極めて重要なまちづくりの一つであると考えます。

鎌ヶ谷市といたしましても、さまざまな施策により、地域での活動が活発になり、自助・共助を基本としながら地域力が充実する仕組みを構築していきたいと考え、こうして、多くの関係団体の方々にお集まりいただき、ご意見を伺いたいと考えております。

お忙しい中、誠に恐縮でございますが、ご理解とご協力のほどをお願いし、はなはだ簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。

(3) 委員及び事務局の自己紹介

3. 第1回会議

議題(1) 会議の公開・非公開について

会議の原則公開については異議なく承認された。

傍聴人については、本日なし。

議題(2) 委員長及び副委員長の選出について

委員長については、山本委員より徳田委員の推薦があり、異議なく承認された。

副委員長については、山本委員より九谷委員の推薦があり、異議なく承認された。

議長の交代

仮議長の高橋課長から、徳田委員長に議長を交代した。

委員長の挨拶

徳田委員長

ただいま、委員長を仰せつかりました徳田でございます。

鎌ヶ谷市地域福祉計画策定委員会の委員長といたしまして、皆さまのご協力をいただきながら務めてまいりたいと考えております。少子高齢化社会の現在、地域では近隣関係が

希薄となり、さまざまな事件や事故等が起こっています。このような事件や事故を未然に防ぐためには、地域での支え、助け合う「地域力」が、非常に大切であると同時に、また、私たち一人ひとりが真剣に取り組まなければと痛感しております。

この「地域福祉計画」は、その地域での自助、共助を培う上でも大変重要な計画であると考えます。ぜひ、皆さまの忌憚のないご意見をいただきながら、計画策定に努力してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議題（３） 会議録署名人の選出について

会議録署名人については、名簿順での選出とし、本日の会議録署名人は九谷委員及び三好委員とし、会議録は要点筆記とした。

議題（４） 鎌ヶ谷市地域福祉計画について

徳田委員長

議題４である鎌ヶ谷市地域福祉計画について、事務局の説明を求める。

事務局

資料６「地域福祉、地域福祉計画について」及び資料７「地域福祉に関するアンケート調査結果 結果報告書」により説明を行う。

<質疑応答>

中野委員

アンケートや地区懇談会を行い、進んできているが、３回目の策定に入る前に２回目の地域福祉計画の施策結果の反省などの言及がない。今後、どのように進めていけばよいか検討していただきたい。

福澤委員

PDCAが必要か。

事務局

地域懇談会の中でもそういった話があり、作業中であることを話した。５年前に行っている４つの基本目標「地域のみinnで支えあう福祉活動の推進」「必要なときに、必要な人に、必要なサービスの相談、情報提供の推進」「地域福祉の担い手づくりや地域福祉サービス向上の推進」「地域福祉を推進するためのネットワークづくり」としての課題については整理をしている。内部で最終検討をし、上位決裁を行い、なるべく早く第２回目の策定委員会に提出したい。

中野委員

その質問に関してはその返答で問題ない。地区懇談会に集まる方は、裕福な家庭・行動に自由がきく方が多い。そこでいろいろな検討をし、それなりに成果はある。しかし、生活困窮者に対する

自立支援計画が抜けており、どう組み込んでいけばよいのか。今まで計画に組み込まれていないので、そのことを念頭において新たな方針を決めていくべきではないか。

事務局

そのとおりである。自立支援法が施行され、国からも地域福祉計画に位置付けるとの通知があり、それについてはコンサルタントと話をする。自前メニュー・委託メニューについては、鎌ケ谷市の状況能力に応じて精査していく。情報提供をしながら地域福祉計画を進めていく。また、前回は災害時要援護者であったが避難行動要支援者に名称が変更された。今年度システムを導入し、より情報を的確に把握できる。民生委員の方との帳票のすり合わせや支援方法なども共同で取り組んでいきたい。

中野委員

2回目の計画でのポイントは、災害時に要支援者をどのように支援していくのか、システム的にどう作り上げていくのか。現行計画の基本目標1 - 施策3に書かれているがどのような考えなのか。

また、今後の問題としては、介護保険の問題かもしれないが、国が10年計画で「地域包括ケアシステム」に取り組んでいる。患者の要請があれば、基本的に24時間以内に医者が駆けつけるので、医者との協力が絶対に必要であるが、現状として医者がいない。これからどのように対策していくべきか。障がい福祉課・高齢者支援課だけに頼るのではなく、地域福祉計画の中に取り組んでいければよい。

事務局

その件に関しては知識不足であるので、他部署と連携しながら進めていきたい。

山本委員

他の市町村では、医師会・看護協会との協力により高齢者が救急の時に速やかに駆けつけるシステムが進んでいる。医師の数が足りない、システムに従事する方の不足もあり、直ちには言わないが、鎌ケ谷市にもできればよいと思う。鎌ケ谷市には総合病院があるので連携し、医師会と協力しながらシステムを構築していただきたい。これが地域福祉計画に反映されるとよい。これからの大事なことであるので心して取り組んでほしい。(別添 補足資料あり)

事務局

今回、生活困窮者対策と地域包括ケアシステムの2つのご意見を頂いたので、次回に繋げていきたい。これから5年間、毎年検証していくには、できればこの組織の皆さんで継続して、例えば地域包括ケアシステムなど地域福祉計画で位置づけた施策に対してどのくらい進捗があるのか振り返りながら進めていきたい。

田邊委員

理念・目的・計画を立てることは大事なことだが、その後の短いスパン、1年ごとにでも検証・

PDCAは大事なことである。気になる点は、地区懇談会で162名の地域の方々から課題や現状について話が出た時に、ノーマライゼーションのコンセプトから考えて十分であるか。今後、地区懇談会に参加される方を吟味する必要がある。また、活動している方のキャッチコピーを具体化していくには、市のホームページなどで発信するという案があるが、全部の方に伝わっていくわけではないので、キャッチコピーを具現化していくことをふまえた懇談会の周知が必要ではないか。

事務局

そのとおりである。それぞれの地域で取り組むキャッチコピー化は今回初めての取り組みであり、参加していただいた方がどういった形で自分たちの地域福祉を考えていただけるか。また、どのように浸透していきけるか。市は支援をしながら進めていくことが課題であり、今後の5年間共助で取り組んでいきたい。

中野委員

パブリックコメントについて再度見直しをするべきではないか。いろいろな計画がある中で、パブリックコメントを求める広報をするが、ある程度の期間が過ぎてもほとんど意見がない。しかし、市民から意見がないから計画に対して賛成だとするのは困る。意見がない理由は、地域福祉計画を広報する期間が短いこと、きちんと地域住民に伝わっていないからである。伝え方を工夫したり新たな周知方法を考えていくことが必要である。

事務局

今までもこのような形でパブリックコメントを進めてきた部分があるので、皆さんからも発信していただければありがたい。今後の策定委員会で協議していきたい。

中野委員

課題として考えてもらいたい。

徳田委員長

アンケートの中で回答者は高齢者の方が多いが、若い方の声を取り入れる方法はないのか。

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 中島主任研究員

若い方の意見が全く反映されていないわけではない。回答の割合として無作為抽出のため、高齢者の割合が多くなった。アンケート調査の結果報告書によれば、性別年代の質問では、60代以上が4割、30代40代50代がそれぞれ15パーセントずつ回答をしているので、全く反映されていないわけではないので問題ないと思う。

福澤委員

身体障がい者福祉センター・子育て支援センターについて存在だけを知っていると回答した方が非常に多い。本当に必要な方はこのアンケートを知っているのか。その方々にアンケートに答えてもらわなければ本当の回答が得られないのではないかと。

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 中島主任研究員

施設の利用者にアンケートをとると、全く違った結果になる。しかし、鎌ヶ谷市民全体の中から無作為抽出で行っているため、施設利用をしていない方が回答すると知らないという回答が多くなる。

福澤委員

本当に必要としている方にアンケートをとらないと本当の回答が出てこない。意味はあるのか心配である。無作為抽出もよいが、子育て支援センターのことを知らない方が半数以上いる。本当に必要としている方が知っているのかということが一番大事なことである。もう一步掘り下げてアンケートをとらないと、本当の問題やそれに対する対策をしていけないのではないかと。私から見れば、市役所の各部・各課の顔見知りの職員の掌握度合が非常に悪い。市役所の方が知らなくて、一般市民はいったいどこに相談に行っているのか非常に疑問である。もう一步踏み込まないと本当の問題は出てこないのではないかと。

小林委員

現行計画の26ページにある地域支えあい拠点の整備について、地域支えあいセンターを6か所に作ったとなっているが、稼働しないうちに駄目になってしまったのではないかと。この部分の変更訂正をするべき。東部と南部に作ったが、モデル期間が終わったら無くなってしまった。第1期計画が達成した時点で終わった。第1期計画の目玉だった。それを地域協働会議にして続けていくという話があったが、一度も会議はなく、なくなってしまった。そういう経緯があるので訂正するべき。

馬場委員

資料6「地域福祉、地域福祉計画」についての3ページで共助の話が出てくるが、地域包括支援センターは地域ケア会議に取り組んでいる。千葉県館山市は高齢者率が高く、房日新聞という新聞がありインターネットでも見ることができる(別添 補足資料あり)が、コミュニティ地区が非常に小さい。地域の中で本当に困っているテーマについて、包括支援センターの職員・ボランティア・民生委員が参加し地域ケア会議を行っている。それとは別に、地域で本当に困っている生活上の問題などを話し合う機会を設けているところが多くなってきた。この資料6の共助という考え方はよいことである。地域ケア会議が重要になってくるのではないかと。

山本委員

本当に困った方々がいると、地区社協においていろいろな問題がある場合は手を挙げる。

南部地区には「なんぶ孫の手会」というのがあり、高齢者の方のごみ捨てができない・電球が取り替えられないなど生活に支障が出ている場合は、地区社協（地区社会福祉協議会）に連絡をする。また近所の方が、ごみが溜まっているのを見かねて連絡すると地区社協単位で対応するようなシステムになっている。包括支援センターの少人数でのケア会議は南部地区でも行っているの、だんだん整備されてきている。我々にとっても地域住民にとってもありがたいことである。ボランティアを推進する側にとっても、困っている方が1人でもいたら手を差し伸べられる、また気にかけて解決に結びつけられるという非常に良いシステムが徐々にできてきている。

事務局

いろいろな意見を頂いたが、これらを整理して第2回の策定委員会に骨子案として出していきたい。

徳田委員長

馬場委員と山本委員の意見を聞いて、個々に行っている感じがする。それを1つの事例として皆さんで考えていく解決法をとる形にしないといけないのではないか。地区懇談会を6か所で行ったが、今後に繋げていけないだろうか。民生委員やいろいろな方の意見も出てくるのでそれを取り入れる形がいい。

事務局

それに関しても行政で勝手に決めるのではなく、このメンバーの方で5年間の計画を作っていくので、進捗の度合いを見ていただくという位置付けにさせていただきたい。年に1、2回集まって、その中で意見を出してもらおうという形を作っていけば、地域福祉計画の施策について検証ができると考えます。

徳田委員長

福祉というのは、皆さんを巻き込んで取り組むウェーブだと思うので、広報活動は大事である。必ず伝えると回りの皆が引き込まれて1つのウェーブになる。計画を作るだけではなく広報活動も実施し、多くの方に徹底して知らせることが大事である。

事務局

こちらにも福祉健康フェア実行委員会など違ったところで情報を提供していく方法もあるかもしれない。頂いた意見をもとに、広報活動を広げていけるような方法を考えていきたい。

山根委員

地区懇談会の写真を見る限り、高齢者の方の参加が多いが、きちんと周知されているのか。

事務局

地区社協に依頼し、年齢制限などはしていないが、地区社協主導であることと、昼間仕事を

している方が多いなどという理由で比較的高齢者の方が多くなった。

山根委員

子育てをしている方は昼間の時間帯が忙しいと思うが、地域福祉のことを考えるといろいろな世代から意見を集めていかないと、このままではだめなのではないか。若い世代の方を集めるような工夫はしないのか。

事務局

行政だけで考える問題ではない。いくつかの地区懇談会で継続したいという話があったので、地域の皆さんがどういう形にすれば集まってもらえるのか。若い方も地域の問題について関心を持ってもらうにはどのように工夫すればいいのか、一緒に考えていかなければならない永遠のテーマである。休日に集まるようにしても若い方は集まってこないのが現状であり、若い方にももう少し地域に目を向けていただきたい。また、1日働いて帰ってきて疲れているので休みたい方が多いとは思いますが、1、2時間でも地域のために働いてみようか、関心を持ってみようかというふうに持っていくことは、行政も地域の皆さんも少しずつ考えていただくことが地域福祉計画のテーマでもある。市の方でも土日の開催や参加しやすい方法や子連れの方も参加できるように一時保育を整備しているので活用してもらいたい。お互いにそういう気持ちがないと集まってこない。

山根委員

土日は家族が休みの方が多いのと、家族で出かけたりするので集まらないと思う。そういうことを考えると、どのような話し合いをするのかを市から提案してもらおう。子育てに関心を持っている方は自分の周りにも多いが、市に対して何かをしてほしいとか、何かをしてくれるのではないかという考えはない。今回は広報を見て応募したが、広報を見ていない方が多いのでどのように働きかけるのか、働きかけるまでは市の方でやっていかないと進まないのではないか。この会議の内容はフィードバックされるのか。フィードバックされないと意味がないのではないか。

事務局

パブリックコメントがあるので、全員の方に知らせる方法もある。また、地区懇談会もやっているので進捗状況を地区社協や地域の方に伝える。なお、ある程度は広報を通じて伝えていくことになる。周知方法については、行政で一方的に決めるものではないので、逆に皆さんから意見を出して頂ければと思う。

事務局

私は幼児保育課長をしており、昨年度までこども課長をしていたので若い方の意見を取り入れる、また、若い方を巻き込んで大きなウェーブを作るというやり方については、一度持ち帰り、どういったことが可能なのか、パブリックコメントをやるにしても若い方が

手にとり、こういうことを作っていることを伝えられる場所に置く。そういうことを確認しながら若い方の意見も多く吸い上げていけるような計画にしていきたいので、一度内部で検討したい。

三好委員

ノーマライゼーションについて障がいがあるないにかかわらず、地域の中で住みやすい生活ができるように活動できるならと思います、今回参加した。アンケートの中に障がいのある方たちの意見も取り入れてもらえたらよかったと思う。障がいには、身体障がい・精神障がい・知的障がいに分類されているデータが資料に載っているが、自立支援で障がい者たちがどのようにして生きていくか、また周りの方がそれをどのようにしてサポートしていけるか、今日初めてなので、学習してお手伝いをしながら参加させていただきたいと思っている。

九谷副委員長

自治会連合協議会から参加しているので、自治会からの話をするが、皆さんの真の声というのは、自治会にとってはミクロの話がたくさんあり、ミクロだけを拾っていてもうまくいかないで、マクロでどう評価していくべきか。事務局にお願いしたいのは、社会福祉協議会と社会福祉課は話し合いをしているのかということ提起したい。

私は南部地区に属しており、福祉委員会の委員長をしているが、そこにはなんぶ孫の手会というのがあり、電球を替えてほしい・ゴミ捨てをしてほしいといった依頼を受けている。南部地区社協には、なんぶ孫の手会や在宅福祉委員会という別の大きな委員会があるが、若い方の参加はない。若い方を除外しているのではなく、ボランティアとして集まってきたので昼間しかできない。夜に行う場合もあるが呼びかけても参加しないという状況である。

南部地区の場合、6自治会が集まっており、各自治会の内容は各自治会の方でないとは分からないが、元民生委員の方や現職の民生委員の方にも参加してもらい話し合いをしている。社会福祉課も普段から関わらないと、本当のマクロの部分での施策が本当にできるのか。我々が参加し、協力していかないと意味がないのではないかと。

自治会の中には子ども会とPTAがあるが、若い方は自治会も子ども会も参加できないという。その理由は、時間がない・子育てで大変であるということと、PTAのことだけでも大変なのに、そこに自治会も加わるとコミュニケーションをとるのが難しい。子ども神輿などの催し物をするが、皆さんが率先して参加してくれる状況は作られていない。

一自治会でありながらなかなかできない状態というのは、本当に大きな問題であり、真剣になって考えていかないとうまくいかないのではないかと感じている。計画の中身が伴っていないと意味がないので、皆さんの力を借りながらやっていければよいと思う。

山根委員

子ども会の催しに参加する子どもが少ないということか。

九谷副委員長

参加する子どもたちは、それなりにはいる。

山根委員

ただ、話し合いには参加してこないということか。

九谷副委員長

我々の自治会では、小学校の学区が3つに分かれているため、それぞれの学校のPTAがやることの中身はほぼ同じである。学区が違うので日程が違ってくる。一堂に3学区の生徒たち児童たち皆さんが集まれる会などを子ども会の方で作ってほしいが難しい状況である。そのため、子ども会の役員も一番大きな学区のPTAが中心になってしまい、非常にやりにくい。こちらからアドバイスなども言いにくい状況である。

山根委員

役員に関しても同じ人になるのか。

九谷副委員長

小学校の役員もPTAも、会長や役員が毎年変わるので大変である。1年生の保護者が役員をすれば6年間小学校にいることになるが、大体高学年の保護者が役員になってすぐに終わってしまう。

田邊委員

資料7「地域福祉に関するアンケート調査結果（概要）」について、自治会に今まで入っていたが辞めてしまった方、地域活動やボランティアを今まで参加していたが辞めてしまったという方が何人かいる。その理由をサブクエスチョンなどで聞いたりしているか。

九谷副委員長

自治会に入らなくても、行政が全てやってくれるから自治会に入らない方が増えている。また高齢化により、役員の担当が回ってきてもできないので脱会するというケースがある。

田邊委員

理由を検討していくと見えるものがある。サブクエスチョンでは聞いてないということか。

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 中島主任研究員

自治会に関してのサブクエスチョンは聞いていないが、ボランティアに関してはサブクエスチョンがある。アンケート結果報告書の55ページに記載があるが、一番多かった回答は仕事・家事育児などの都合や時間がない、参加方法がわからないという結果であった。

三浦委員

北部地区社協は2,600世帯のうち、対応しているのは70歳以上で、いろいろな催しものを行う際も70歳以上の方である。高齢者の方の集まりが主になっているので、若い方への働きかけは殆どしていない。地区社協では、高齢者・独居老人を対象とした活動・催しをしている。平成14年にできたコミュニティセンターがあるが、若い方や子どもたちが来ている。児童館とコミュニティセンターを併設しており利用者が多い。当初は職員が5人いたが減ってしまい、現在は3人しかいない。地区社協は公民館を拠点にして活動を行っているが、30代40代の母親を対象とした事業や計画は全くやっていない。

山根委員

今は別々のところでやっていて、うまく回っているのか。

三浦委員

そうではない。地区社協としての活動・方針は、若い母親を対象とした事業をしていないということである。

山根委員

やる予定もないのか。

三浦委員

ない。北部地区の若い方は、年末年始などの休み以外は開館しているコミュニティセンターに行ってもらおうという考えである。公民館は年末年始を含めると60日程度の休館があり、地区社協では若い方を対象にした活動や企画は全く考えてない。今までもやっていないし、これからもやるつもりはない。65歳以上の方は老人クラブに入るように勧めるが、まだまだ現役で元気だということが入ってこない。老人クラブの会長からは是非入ってほしいと言われるが、自治会に働きかけるが強制ではないので入る方が少ない。特に男性の方は入ると役員をさせられるので入らない。現在40名のうち、男性5名、女性35名である。

子ども会に関しては、10年間自治会長をしたが、子ども会も3年前くらいから子ども会に入るのはよいが、役員をさせられるのは困るということで減ってしまい、実際には子どもは60名程いるが、一昨年子ども会がなくなった。子ども会・老人クラブ・支援団体にそれぞれ5万円ずつ支援金を出しているが、子ども会がなくなったので出しどころがなくなった。今は、夏まつりなどは自治会が主催で行っている。

山根委員

子ども会の役員というのは、仕事をしていても務まるものなのか。

三浦委員

私からすれば、役員をするというのにはそんなに大げさなことではないと思うが、若い方の考え方は、公の役員の仕事をすることや時間を割かれてしまうことが嫌な理由である。しかし、子どもは小学校に行っているのでPTA活動はするが、地区の子ども会の役員は嫌だという。

山根委員

役員は誰かがやらないといけないことは分かるが、私自身、いずれ働きに行きたいと思っているので、実際に役員になるということになると考えてしまう面がある。

徳田委員

それぞれで噛み合わないことが出てくる。歩み寄りが必要だと考える。

議題（５） その他

事務局からその他議題について説明を行う。

第２回策定委員会の日程について説明を行う。

次回第２回策定委員会は、１１月９日（月）１４時から開催に決定した。

４．閉会

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため、次に署名する。

平成２７年１１月９日

氏 名 九谷 林太郎

氏 名 三好 志都美